

小学校 国語科

1. 国語科における学習評価の基本的な考え方

国語科では、学習指導要領に示された資質・能力を、言語活動を通して育成していくことが大切です。この資質・能力は、指導事項として示されており、そのまま単元の目標として設定することが可能です。この指導事項を踏まえ、目標の実現に向けた児童の学習の状況を評価します。また、資質・能力の3つの柱のうちの一つ「学びに向かう力、人間性等」は、年間を通して目標の実現に向けた粘り強さや自らの学習の調整をしようとする姿を評価します。いずれも児童の学習や教員の指導の改善に生かすことが大切です。

2. 小学校国語科の学習評価の事例

小学校国語科の「内容のまとまり」は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」で示され、それらが更に「知識及び技能」は（1）言葉の特徴や使い方に関する事項（2）情報の扱い方に関する事項（3）我が国の言語文化に関する事項に、「思考力、判断力、表現力等」は「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の領域に分けられています。この内容のまとまりを踏まえた学習評価の事例を、第2学年の単元で説明します。



例 第2学年「夏休みの思い出を報告しよう」

○ 本単元で取組む言語活動と言語活動例との関連

・夏休みの思い出について報告したり、それらを聞いて感想を記述したりする。（関連：「思考力、判断力、表現力等」A（2）ア）

（1）単元の目標の設定

当該単元の目標を指導事項の一部を用いて設定する場合もある。

「学びに向かう力、人間性等」の目標は、いずれの単元においても、当該学年の目標の（3）の「言葉がもつよさ～伝え合おうとする」までを目標として設定する。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。（1）オ	・相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考慮することができる。A（1）イ ・話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。A（1）エ	言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

読書は、単元の実践の有無にかかわらず、年間を通して育成する目標として設定する。

（2）単元の評価規準の設定

当該単元で重点となる学習指導要領に示された指導事項を記載する。

目標の実現に向けた児童の学習の状況を評価するため、「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点の評価規準は、（1）で設定した単元目標をもとに、内容のまとまりごとの評価規準(例)を参考に設定します。

領域を意識して指導をするため「領域名」を入れるようにする。

児童の「粘り強さ」や、「自らの学習の調整」をしようとする姿を評価する。言語活動自体を評価するのではないことに留意する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語彙を豊かにしている。（1）オ	①「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。A（1）イ ②「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。A（1）エ	進んで（1）、相手に伝わるように話す事柄の順序を考え（3）、学習の見通しをもって（2）報告しようとしている。（4）

当該単元の目標に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を設定する。

児童の姿を評価するため、文末は「～している。」等にする。

1から4の組み合わせは、目標や児童の状況に応じて工夫する。

主体的に学習に取り組む態度の評価について

- 粘り強さ（例：積極的に・進んで・粘り強く等）
- 自らの学習の調整（例：学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等）
- 「知識・技能」「思考・判断・表現」において、特に粘り強さを発揮して欲しい重点とする内容
- 自らの学習の調整が必要となる当該単元の具体的な言語活動



